

学童クラブ連絡会と尾張旭市議会との意見交換会  
(中央公民館 1階 101会議室 2月17日(土) 19:00~20:00)

テーマ「民間学童クラブの安全・安心について」

施設の耐震をはじめとし、非常時の安全確保、システム等も確立していきたい。

1. 施設の耐震補強について

公設の児童クラブは建物の耐震化がなされているが、民間学童クラブは築年数が古く、耐震が充分でない建物が多い。南海トラフ大地震が懸念される中、子どもたちの命を守る上でとても不安である。

2. 非常時の安全確保・システム等の確立について

災害対応マニュアルはあるが、児童館等と連携した災害時の仕組みを作してほしい。

【福祉文教委員会としての考え】

子どもたちが安全・安心に過ごすことができる環境の整備や、非常時に適切な対応ができるシステム等の確立は、必要不可欠である。運営する学童クラブの非常時における安全確保への備えと、学校・地域・市との連携が大切であると考えます。

1. 施設の耐震補強について

市では、大規模災害に備え、施設の耐震補強、その他の修繕費の補助は、子どもたちが安心して生活するために重要な課題であると考えているが、一方で、学童クラブが所有していない建物の資産価値を高めるような助成を行うことへの議論が必要な状況である。福祉文教委員会として、各学童クラブへ現地調査を行い、多くの施設において老朽化が進んでいると痛感した。また、現場でも施設の安全面への不安の声が寄せられた。全学童クラブの建物は民間の賃貸物件であり、耐震補強等の補助を受けるためには、所有者の承諾や、継続的な運営が可能なことなどが条件として挙げられるが、施設の耐震補強に対する補助を市へ要望してまいりたい。

その他、国の「子ども・子育て支援交付金」の補助事業「放課後子ども環境整備事業」の市への相談を提案する。

2. 非常時の安全確保・システム等の確立について

市では、非常時の安全確保のため「学童クラブ用地震発生時対応表(指導員向け)」を作成し、各学童クラブへ配付している。また、「尾張旭市地震ハザードマップ」「尾張旭市避難所マップ」「誰でも出来る家具の転倒防止マニュアル」「各学童クラブの周辺街頭消火器等位置図(街頭消火器の場所、AED設置場所)」も配付している。

福祉文教委員会として、市へ統一的なマニュアルの作成を要請していきたい。各学童クラブにより規模や立地条件が異なるので、個別に避難誘導マニュアルの作成の検討を提案する。横浜市の「放課後児童クラブ安全管理マニュアル」など先進自治体の参考例もある。地域とのつながりの面では、各校区連合自治会で設置されている「自主防災組織」の「防災訓練」への参加は、いざというときに役立つ。非常時に対する備えとして、学校・地域・市と日ごろから情報共有を図り、協力体制を整えていくことが重要であると考えます。

その他、市役所の出前講座「大災害時の対応」の活用を紹介

## 【意見交換】

- ・防災ラジオが受信できない(一部の施設)。防災ラジオに代わる周知方法を考えてほしい。  
→音が鳴ったら、外へ。防災行政無線のデジタル化(H34より)
  - ・建物の耐震補強について  
個人所有の物件の資産価値を上げかねない施策をわかったうえで、学校などの公的機関を間借りできないか?将来的にできたらよい。
  - ・民間学童クラブの施設が、丈夫で大きな建物で安い物件になってしまう仕組みが理解できた。今後、最適な物件を繋ぐことが可能になると良い。今は法的にもできる仕組みがない。仕組み作りが今後の課題である。
  - ・物件所有者が貸してもいい制度づくりを望む(税制控除や補助金など)
  - ・借りられない理由は、子どもが騒ぐ・暴れるなどの理由か?
  - ・一年契約で耐震補強は難しいので、公設施設を希望する。長久手市の例、名古屋市の例(土地借りる→プレハブ建設)、瀬戸市の例(閉まった保育所の利用例)  
→公設民営で様々窮屈にならないか?
  - ・公設民営になると自由度が減る心配もあるが、選択肢のひとつとなれば良い。
  - ・ハザードマップの説明、耐震診断の説明→大家さんに依頼しては?
  - ・災害・風水害時について  
親への引き渡し・留め置き判断や垂直避難(高層階へ)。学校～学童クラブ～各家庭へのルート確認
  - ・事前視察での感想  
地域の協力があると助かる。施設として自治会に入会されては?
  - ・希望があれば、一時避難所として地域資源(近隣の施設)との連携・協定の橋渡しを行う。
  - ・自治会加入について  
→保護者運営なので保護者次第。  
→加入について前向きに考えたい。  
→加入の有無に関わらず、子ども達が地域に認識いただける仕組み作りが必要。
  - ・ヘルメットなどの補助について  
→長野県のある保育園では子どもの数だけヘルメットが備えてあった。しかし本市では現状児童クラブにもない。子どもたちの命について真剣に考えてほしい。  
→学童クラブは耐震も十分ではないのでヘルメットの備えが必要では?静岡県磐田市では、幼稚園・保育園の入園時に、高校まで使用する防災頭巾を親が用意するよう決めている。  
→現状、市からのヘルメット補助は難しいので、社会奉仕団体などに依頼しては?
  - ・広告収入などを考えてはどうか?
- 以上、活発な意見交換が行われた。

民間学童クラブの課題を伺い、市議会として情報を共有することが出来、とても有意義な意見交換会であった。また、今回の意見交換会を開催するにあたり、二日間に渡り各学童クラブの現地調査を行い、耐震化が不十分な施設を確認し、指導員から直接要望等を頂いた。子どもたちの安全・安心を守るために、今回、皆様から頂いた貴重なご意見は、今後、市への要望や提言をする際の参考にして参りたい。